

外国人向けのゴミ問題に関する英文の説明書について

別紙の英語の文書は、白馬村在住の外国人に本村のごみ問題の実態を知ってもらうために「白馬村新ごみ処理施設を考える連絡協議会」が用意したものです。本来ならまず行政が用意すべきものです。しかし、行政にはその気がないらしく依然用意される気配がありません。そこで連協が先行して用意したわけです。もちろん、建設反対の立場からの文書です。毎日新しい問題が発生するごみ問題です。したがって、ごみ問題を説明する決定版ではありません。この文書もごみ問題の過程を示すものです。

次に、「白馬村居住の外国人」(平成 20 年 9 月 30 日現在)について一筆します。

- 1) 外国人登録者数：135 名
- 2) すべての国籍：1. オーストラリア 2. カナダ 3. 中国 4. フランス
5. ドイツ 6. インド 7. イラン 8. イタリア 9. 韓国・朝鮮 10.
ネパール 11. オランダ 12. ニュージーランド 13. フィリピン 14.
ルーマニア 12. スイス 13. タイ 14. 英国 15. 米国
- 3) 国籍の多い順 (5 番まで)：① 韓国・朝鮮 (29 名) ② フィリピン (28
名) ③ オーストラリア (26 名) ④ 英国 (9 名) ⑤ カナダ、中国、ニュージーランド (各 7 名)

このデータは役場の住民課で調べてもらったものです。

まず①の韓国・朝鮮という表記について。日本は目下朝鮮人民共和国(北朝鮮)と国交がありませんので、韓国・北朝鮮と表記できません。しかし、実際には、韓国籍を持たないで朝鮮族の一員として居住している人もいるところからこのような表記となったものです。中途半端な表記ですがやむを得ないでしょう。次に、データからは英語国の人たちが圧倒的に多いことが分かります。したがって、説明書を英語で用意するのは現実的に適切なのですが、言語の平等という観点からは、説明書を英語のみで用意するのは英語一極集中状況を固定化するという意味で危険です。少なくとも居住者のもっとも多い韓国・朝鮮の人たちの母語(ないしは母国語)のハングルで表記した説明書が必要です。これは日本全体の問題です。(2008/10/23 中村 敬)